

令和3年度病害虫発生予察指導情報  
対象病害虫：ナシ黒斑病

令和3年7月26日  
鳥取県病害虫防除所

表1 ナシ黒斑病の果実における発病率（令和3年）

地 区	ポリ袋検定法による			被袋果実の発病率(%)					
	幼果の発病率 <sup>1)</sup> (%)			6 月			7 月		
	本年	前年	平年 <sup>2)</sup>	本年	前年	平年	本年	前年	平年
河原町	0	0	6.8	1.7	5.0	2.5	1.7	6.7	5.5
佐治町	0	- <sup>3)</sup>	- <sup>3)</sup>	0	- <sup>3)</sup>	- <sup>3)</sup>	1.7	- <sup>3)</sup>	- <sup>3)</sup>
青谷町	0	0	- <sup>4)</sup>	1.7	1.7	- <sup>4)</sup>	6.7	6.7	- <sup>4)</sup>
八頭町	1.0	0	0.2	0	0	0.2	0	0	0.3
湯梨浜町（別所）	0	0	0.5	1.7	0	0.2	0	0	0
湯梨浜町（勝負谷）	0	1.0	1.0	0	1.7	0.3	0	0	0
倉吉市	0	0	0.5	0	0	0.3	0	0	0.8
北栄町（園試）	0	0	1.8	0	5.0	2.8	1.7	6.7	8.5
琴浦町	0	0	1.0	0	0	0.5	0	0	1.7
大山町（中山1）	- <sup>5)</sup>	1.0	1.0	- <sup>5)</sup>	0	0.7	- <sup>5)</sup>	0	1.2
大山町（中山2）	0	0	- <sup>4)</sup>	0	0	- <sup>4)</sup>	0	0	- <sup>4)</sup>
南部町	0	0	- <sup>4)</sup>	0	1.7	- <sup>4)</sup>	0	3.3	- <sup>4)</sup>
平均	0.1	0.2	1.6	0.5	1.4	0.9	1.1	2.1	2.3

(注)

<sup>1)</sup> 1園当たり100果について調査(試料採取：4月19日、23日。採取後25℃に静置し、3日目に調査。その後、発病果率を算出)

<sup>2)</sup> 平成23～令和2年の平均値。

<sup>3)</sup> 令和3年より調査地点を変更した。

<sup>4)</sup> 令和元年より調査地点を変更した。

<sup>5)</sup> 伐採により調査できなかった。

<要約>

幼果の平均発病果率は1.1%(平年：2.3%)であり、平年に比べて少ない発生量であった。

令和3年度病害虫発生予察指導情報  
対象病害虫：ナシ黒斑病

令和3年7月26日  
鳥取県病害虫防除所

表2 ナシ黒斑病の新梢葉の発病状況(令和3年)

地 区	新 梢 葉 の 発 病 率 <sup>1)</sup> (%)								
	6 月			7 月			9 月		
	本 年	前 年	平 年 <sup>2)</sup>	本 年	前 年	平 年 <sup>2)</sup>	本 年	前 年	平 年 <sup>2)</sup>
河原町	6.0	2.7	2.1	32.7	8.8	10.5		19.0	17.7
佐治町	0	- <sup>3)</sup>	- <sup>3)</sup>	4.6	- <sup>3)</sup>	- <sup>3)</sup>		- <sup>3)</sup>	- <sup>3)</sup>
青谷町	5.3	1.3	- <sup>4)</sup>	8.2	5.1	- <sup>4)</sup>		6.6	- <sup>4)</sup>
八頭町	0	0	0.3	0.5	0.5	1.4		3.2	3.9
湯梨浜町(別所)	2.1	4.7	1.7	0	5.2	2.0		1.9	3.2
湯梨浜町(勝負谷)	1.5	3.6	0.8	0.5	1.5	1.5		2.1	4.1
倉吉市	0.5	3.2	0.6	0	0.9	1.7		5.4	4.0
北栄町(園試)	1.7	14.2	3.5	9.4	15.8	11.7		24.9	25.1
琴浦町	1.6	5.7	1.2	2.5	3.1	3.3		3.1	3.2
大山町(中山1)	- <sup>5)</sup>	0.9	0.3	- <sup>5)</sup>	0.4	1.5		2.8	5.0
大山町(中山2)	0	2.7	- <sup>4)</sup>	2.0	2.7	- <sup>4)</sup>		2.3	- <sup>4)</sup>
南部町	0	0	- <sup>4)</sup>	0	2.1	- <sup>4)</sup>		2.7	- <sup>4)</sup>
平均	1.7	4.1	1.3	5.5	4.2	4.2		6.7	8.3

(注)

- 1) 1園当たり10新梢について全葉数及び病葉数を調査
- 2) 平成23～令和2年の期間のうち2年以上の値の平均値(最大10年)
- 3) 令和3年より調査地点を変更した。
- 4) 令和元年より調査地点を変更した。
- 5) 伐採により調査できなかった。

<要約>

新梢葉における発病率は5.5%(平年:4.2%)と平年並であった。

<対策>

今後、発病の多い園では、慣行防除に加えて追加防除を検討する。防除薬剤には、有機銅水和剤(キノンドーフロアブルまたはドキリンフロアブル)、アリエッティC水和剤、ベルコートフロアブルなどがある。